

# 花さき山

タイトル文字: 滝平二郎

## ブックスタートクラス

毎週水曜日は視聴覚室開放 DAY♪

(午前9:00~午後5:00まで)

**【幼児向けおはなし会】**

11月2日、9日⇒午前10:00~

16日⇒午前11:00~

ウォンバットエクササイズ  
(親子体操教室)  
11月30日(水)  
午前10:30~  
明野図書館 視聴覚室  
健康についての相談もできま  
すよ!

## 10月のおはなし会

《図書館スタッフ》

いつ: 11月5日(土)

時間: 午前11:00~

《「やまびこ」さん》

日時: 11月20日(日)

時間: 午後3:00~

児童書

視聴覚室

## 音読会

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 11月1日(火)

午前11:00~12:00

気軽に発声練習してみませんか?

もちろんお子さんも参加できます☆

先月に引き続きテーマは、

『宮沢賢治』です。



## 11月の映画会

## レベッカ

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 11月26日(土)

午前10:00~(上映時間: 130分)

大人向けの映画です!

今回も映画コンシェルジュの解説付きですよ♪

お申込不要。

## 闇鍋コーナー

場所: 明野図書館 特集コーナー

期間: 11月1日~11月30日

タイトルも作者も大きさも厚さも分らない  
謎に満ちた本たち(具材)があなたに選ば  
れるのを待っています。

## 図書館 de ビンゴ!

場所: 明野図書館

期間: 11月1日~12月27日

対象: 0歳~15歳の

「図書館利用カード」を持っている方。

受付は明野図書館 カウンターまで!

ビンゴカードに書かれた本を貸りて読ん  
で、ビンゴをねらおう☆

## リサイクルフェア

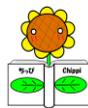
秋のリサイクルフェアを開催します! 図書館の再利用本を無料で  
ご希望の方にお持ち帰りいただけます。今回、雑誌はありません。

※ ご利用される方は、必ずお持ち帰り用の袋などをご持参ください。

明野図書館 視聴覚室

11月5日(土)、6日(日)午前9:00~午後5:00





## 朝鮮半島(今の北朝鮮)から命がけの引き揚げ — 太平洋戦争体験講演(アルテリオでの発表)より —

森田 千鶴子

この話は、私が森田の家に嫁いだ時、一年間にわたり、毎晩母から聞かされた、過酷な戦争体験、今の北朝鮮北部から幼な子3人をかかえての引き揚げの話です。

昭和20年8月、一家は朝鮮半島(今の北朝鮮)北部の黄海道載寧という所に住んでいました。夫婦と5才の長女、3才の長男との4人暮らしで小学校の教員をしていた父は、二ヶ月程前に現地応召されました。8月9日のソ連参戦で現地の日本人の運命が大きく変わってしまいました。父は行方不明、母と子供達は他の同僚家族二組と収容所の一室に閉じこめられました。数日後、捕虜となっていた父との面会が許され、母は父に3人目を身ごもったようだと言いました。父は、軍からもらった小さな砂糖袋を母にそと渡しました。収容所での生活は毎晩のようにソ連兵が日本人の若い女性や少女を無理やり連れ去り、まるで生き地獄をみているようで、何とかここから逃げ出したいという思いに皆かられていました。この恐怖に3才の長男が大声で泣き出し、怒ったソ連兵がサーベルで頭を殴りできた傷が今でも額に残っています。こんな恐怖の生活を送るうち、身重の母は急に産気づいて、予定日より4カ月も早い12月15日収容所の押し入れの中で体重600匁(約2200g)の超未熟児の男の子を出産。朝鮮人の産婆さんから「この子は3日と持たない」といわれたそうです。母は栄養失調と恐怖心から母乳が全く出ず、父がくれた、砂糖を水で溶いて綿に含ませて与えました。この砂糖水で100日生き続けるものの、泣き声すら出す元気もなかったが、日本人の経営していた旅館が収容所になった事も幸いし、オンドルという床下暖房で、極寒の朝鮮の冬をくぐり抜けられたようです。昭和21年4月、三家族で相談し、収容所を脱出、生後100日の次男を背負い、幼な子二人の手を引き母29才の決死の逃避行でした。昼間と月夜の晩は南をめざし、山を越え、道なき原野を歩き続けました。途中、日本軍の脱走兵だという日本人青年が紛れこんできました。母はこの青年を3才の長男の面倒を見てもらうことで雇いました。風や雨を凌ぎ、オオカミの群からのがれ、2ヶ月が過ぎた時、南北を分断する38度線の境界に達した。母がおむつの中に縫いこんでいたお金を道案内人に渡し、道案内人から赤ん坊は捨てていけ、子供は泣いたら即殺すと2つの条件がつけつけられ、母は必死に頼みこみ、赤ん坊は泣いたら即殺す条件で一気に走り出しました。無事、南朝鮮へ入ったら、連合軍の兵士は寛大で難民は早く行けと通してくれたのですが、朝鮮人の略奪、暴行は続き、やっとの思いで釜山から密航船で博多に到着、3ヶ月かかってようやく日本の土を踏んだのでした。3日ばかりで父の実家の茨城県藤代町にたどり着きました。父がシベリアから4年8ヶ月ぶりに元気な姿で帰って来ました。藤代町最後の帰還兵でした。父は「両親からもらった丈夫な身体に感謝する。」といい、母は「戦争は前線で戦う兵隊さんも命がけだが銃後の女、子供も命がけだ。戦争は二度とおこしてはいけない。」というのが口ぐせでした。

(もりた ちずこ／取手市在住 加波山事件研究会会員)